

令和5年度国立赤城青少年交流の家教育事業

「あかぎ無限大キャンプ（事前キャンプ）」

1. 趣旨

本キャンプに向け、心身の準備を整えるとともに、キャンプについての基本的な知識技能の習得を目指す。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和5年7月8日（土）～7月9日（日）【1泊2日】

(2) 参加者 24名

5年生男子（4名） 6年生男子（8名）

5年生女子（7名） 6年生女子（5名）

3. 企画運営のポイント

- (1) 本キャンプに向けて、心身の準備を自分なりに考えられるように本キャンプで実施する日程・プログラムを中心に計画した。特に登山・野外炊事について安全確認を行い、基本的な知識・技能の習得ができるよう実施した。
- (2) プログラムごとにチームを編成することでより多くの参加者同士が交流できるよう配慮した。また、チームリーダーであるボランティアも活動ごとに変え、多くの参加者の実態把握ができるよう配慮した。
- (3) アイスブレイクでは、ボランティア主体のアイスブレイクを中心に実施し、ボランティアが参加者の実態把握ができるよう配慮した。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
7月8日 （土）	受付 開会式 自己紹介・アイスブレイク 昼食	レクリエーション 眼の検査	野外炊事 ふりかえり
7月9日 （日）	朝のつどい 朝食 登山 （覚満淵～長七郎～小沼） 昼食 （小沼湖畔）	ふりかえり アンケート 解散	

5. 主な活動内容



「開会式」



「アイスブレイク」



「野外炊事」



「朝のつどい」



「登山（覚満淵）」



「登山（長七郎山）」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：21人（88%） やや満足：3人（12%）
やや不満：0人（0%） 不満：0人（0%）

(2) 参加者の声

- ・はじめは緊張したけれど、アイスブレイクやレクリエーションで仲良くなった。
- ・初めて会った人と自己紹介やゲームができてとてもよかった。
- ・かまどで火を使ってカレーを作るのは初めてで難しかったけど上手にできた。
- ・みんなで作ったカレーがおいしかった。
- ・みんなで協力して登山ができた。山頂から見た景色がきれいだった。登ったかいがあった。
- ・登山ではみんなで声を掛け合いながら山を登ったり休憩したりすることができた。
- ・ボランティアさんは優しくそばにいてくれて安心した。
- ・不安なことや心配なことがあるとスタッフがすぐに教えてくれた。

(3) 成果

- ・ボランティア中心のアイスブレイクでは、「楽しくて初めて会った人ともすぐ仲良くなった。」との感想から、スムーズな仲間づくりにつながった。
- ・活動ごとにグループを編成したことで、ボランティアが参加者の実態把握ができ、参加者同士が交流を深めることにつながった。
- ・プログラムに関する回答では、野外炊事に関する技能や登山の体力配分に関する記述が多く、基本的な知識・技能の習得につながった。
- ・本キャンプに向けて、自己の体力や野外炊事での改善点など課題を見つけ、本キャンプに生かしたいという前向きな感想が多く、本キャンプに向けての期待が高まった。

(4) 課題

- ・感染症対策はもちろんのこと、暑さへの対策が必須である。本キャンプではゆとりあるプログラム編成や班付きボランティアとの連携を十分に図り、熱中症予防に努める必要がある。
- ・施設利用の仕方については、全体のオリエンテーションが行えなかった。プログラムを見直し、必要最低限の施設の使い方については説明が必要だと感じた。

担当：企画指導専門職 中山 太平